

稲作技術情報（第3号）

平成19年8月7日
ＪＡきたそらち・ＪＡ北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

いもち病初発を確認。発生がないか確認を

地区内で、8月3日に穂いもち病の発生が確認されました。

（ブラスタムでは7月28日～29日に準感染好適条件を観測。この時期の感染と推察）

また、8月2日～4日にかけての降雨により湿度と夜温が高い「いもち病の感染に好適な気象条件」となっており、十分な注意が必要です。

感染した場合は、感染好適日から5～7日後にいもち病の症状が現れます。

初発を見逃し、防除対策が遅れると大きな被害につながりますので、ほ場をよく見回り、いもち病の発生がないか確認しましょう。

観察のポイント～いもち病が発生しやすいほ場を中心に観察する。

- ・「ほしのゆめ」「ななつぼし」など、いもち病抵抗性の劣る品種の水田
- ・建物の陰など風当たりの弱い水田
- ・葉色が濃い、または生育量の大きい水田
- ・過去3年以内に、いもち病が発生した水田とこの近隣の水田

いもち病の発生を確認した場合は、直ちに治療効果のある薬剤で防除しましょう。

なお、発生程度がひどい場合は、その部分の刈り取り・搬出も検討しましょう。

乳白・腹白の発生にも注意

現在、登熟初期段階にあります。週間予報では、今週は気温が高めで日照時間が少ない予報です。このことから、乳白粒・腹白粒の発生にも注意が必要です。

今後の水管理

登熟初期・中期（出穂期後10日～3週間）に高温・日照不足が続く場合は、乳白粒・腹白粒・心白粒の発生が心配されます。特に土壤水分不足は発生を助長しますので、登熟初・中期も「3cm程度の水深」を維持するようにしましょう。ひび割れが生じている水田は、早急に入水してください。

降雨が十分あり、土壤水分が確保できる場合は、ほ場透排水性に応じた時期に落水して下さい。なお受精後30日頃までは大量の水を消費するので（それ以降は急激に消費量は減少）、それまでは十分な土壤水分が保てるように落水時期は慎重に決めてください。

落水後も、土壤水分70～90%を維持するように、必要に応じ「走水」を行ってください。